様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	新潟医療福祉カレッジ
設置者名	学校法人エイシンカレッジ

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	医療総合科	~~夜・通信~~	６００時間	１６０時間	―
	オンライン通信科	夜・通信	１４８単位	４単位	―
教育・社会福祉専門課程	社会福祉科	~~夜・通信~~	７０８時間	１６０時間	―
	介護福祉科	~~夜・通信~~	１，７４２時間	１６０時間	―
	国際介護科	~~夜・通信~~	１，５４４時間	１６０時間	―
	社会福祉専攻科	~~夜・通信~~	９９０時間	１６０時間	―
	オンライン通信専攻科	夜・通信	１３８時間	４単位	―
	オンライン通信科	夜・通信	３３単位	４単位	―

（備考）

・商業実務専門課程オンライン通信科は旧課程のため２年次のみ在籍
・教育・社会福祉専門課程オンライン通信科は新課程のため１年次のみ在籍

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://if-college.com － 情報公開 － 実務経験のある教員等による授業科目一覧

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	新潟医療福祉カレッジ
設置者名	学校法人エイシンカレッジ

１．理事（役員）名簿の公表方法

http://if-college.com － 情報公開 － 理事（役員）名簿

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	前コミュニティセンターセンター長	R7.5.30～4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時まで	コンプライアンス
非常勤	株式会社役員	R7.5.30～4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時まで	コンプライアンス
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟医療福祉カレッジ
設置者名	学校法人エイシンカレッジ

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) （１）授業計画（シラバス）の作成過程 ・その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う ・１月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する ・担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う ・３月上旬に使用テキストを決定する ・学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する （２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期 ・作成時期：2 月から 3 月 ・公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する	
授業計画書の公表方法	http://if-college.com － 情報公開 － 授業計画書（シラバス）

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

・修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
    - 期末考査（定期試験）
      - ペーパー試験
      - 実技（技能）試験
      - レポート試験
    - 累積考査
      - 模擬試験
      - 課題

・学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）となる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点
Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

各科目の評価（Ｓ～Ｃ）にそれぞれ４～１の重みを付け、数値化することにより評価・成績の分布状況や各学生の相対的な順位を把握する。学生毎に全科目分の重みを加算し、合計値を科目数で割ることにより、客観的指標となる評定平均値を算出する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	http://if-college.com － 情報公開 － 成績評価における客観的な指標の算出方法

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） １．卒業の認定方針 ① 各専門分野において必要とされる基礎的な知識と技能を習得し、活用することができる ② 対人応対における基本的なマナーと礼節を理解し、実践できる ③ 寛容かつ思いやりの心をもって他者と接することができる ④ 目的を達成するため、チームの一員として協調することができる ⑤ 感情や行動のコントロールができる ２．卒業条件 ① 卒業条件検定を取得していること。また、検定ポイント制を導入している学科では卒業条件に値する検定ポイントを取得していること。 ② １年間の出席率が９０％以上であること。 ③ 成績評価がすべてＤ以上であること。 ④ 学費・補助活動費がすべて納入されていること。 ※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業できない場合がある。 上記の条件を全て満たした者について、毎年２月に開催される卒業認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業を認定する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://if-college.com － 情報公開 － 卒業の認定に関する方針

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	新潟医療福祉カレッジ
設置者名	学校法人エイシンカレッジ

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://if-college.com － 情報公開 － 財務諸表等 － 貸借対照表
収支計算書又は損益計算書	http://if-college.com － 情報公開 － 財務諸表等 －収支計算書又は損益計算書
財産目録	http://if-college.com － 情報公開 － 財務諸表等 － 財産目録
事業報告書	http://if-college.com － 情報公開 － 財務諸表等 － 事業報告書
監事による監査報告（書）	http://if-college.com － 情報公開 － 財務諸表等 － 監事による監査報告（書）

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td colspan="2">専門士</td><td colspan="2">高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">商業実務分野</td><td>商業実務
専門課程</td><td colspan="2">医療総合科</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">―</td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総
授業時数又は総単位数</td><td colspan="6">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td colspan="2">実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼間</td><td rowspan="2">２，２４０単位時間</td><td>1,390
単位時間</td><td>390
単位時間</td><td>50
単位時間</td><td>0
単位時間</td><td colspan="2">0
単位時間</td></tr>
<tr><td colspan="5">１，８３０単位時間／単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td colspan="2">うち留学生数</td><td colspan="2">専任教員数</td><td colspan="2">兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">６０人</td><td>３７人</td><td colspan="2">０人</td><td colspan="2">３人</td><td colspan="2">４人</td><td>７人</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

（１）授業計画（シラバス）の作成過程
- その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う
- １月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する
- 担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う
- ３月上旬に使用テキストを決定する
- 学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する

（２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期
- 作成時期：2 月から 3 月
- 公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する

成績評価の基準・方法

（概要）

- 修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
  期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
    - 期末考査（定期試験）
      - ペーパー試験
      - 実技（技能）試験
      - レポート試験
    - 累積考査
      - 模擬試験
      - 課題

- 学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）と

なる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点
Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級条件

①卒業・進級条件検定を取得している、又は卒業・進級条件に値する検定ポイントを取得していること。
②１年間の出席率が９０％以上であること。
③成績評価がすべてＣ以上であること。
④学費・教育活動費がすべて納入されていること。

※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業・進級できない場合がある。

上記の条件を全て充たした者について、毎年２月に開催される卒業・進級認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業・進級を認定する。

学修支援等

（概要）

・クラス担任制の導入　　・学習支援システム（アプリ）の導入
・成績不振者への補講　　・成績優秀者等の奨励（奨励賞、努力賞）
・定期的な 1on1 ミーティングの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
３０人 （100%）	０人 （0.0%）	２８人 （93.3%）	２人 （6.7%）

（主な就職、業界等）

病院、診療所（医科・歯科）、調剤薬局、ドラッグストア　ほか

（就職指導内容）

自己理解、職業理解、マナー指導、身だしなみ指導、面接指導、履歴書作成指導、キャリア教育（コミュニケーション・職業観の育成・価値観の形成）等

（主な学修成果（資格・検定等）） 診療報酬請求事務能力認定試験（医科）、医療事務管理士技能認定試験（医科・歯科） 調剤事務管理士技能認定試験、介護事務管理士技能認定試験、秘書技能検定、 医師事務作業補助者検定試験、電子カルテ実技検定試験、登録販売者　等
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
２５人	１人	４．０％
（中途退学の主な理由） 学習意欲の低下		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任との定期的な 1on1 ミーティングの実施、保護者との連携、上級生とのネットワーク構築支援、学習支援アプリの導入、学業不振者への補講		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">商業実務分野</td><td>商業実務
専門課程</td><td colspan="2">オンライン通信科</td><td>○</td><td>―</td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総
授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">通信</td><td rowspan="2">６２単位</td><td>242
単位</td><td>0
単位</td><td>0
単位</td><td>0
単位</td><td>0
単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">２４２単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">１０人</td><td>１０人</td><td>０人</td><td>３人</td><td>７人</td><td>１０人</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

（１）授業計画（シラバス）の作成過程
- その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う
- １月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する
- 担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う
- ３月上旬に使用テキストを決定する
- 学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する

（２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期
- 作成時期：2 月から 3 月
- 公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する

成績評価の基準・方法

（概要）

・修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
  - 期末考査（定期試験）
    - ペーパー試験
    - 実技（技能）試験
    - レポート試験
  - 累積考査
    - 模擬試験
    - 課題

・学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）となる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点

Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級条件
①２年間で６２単位以上を取得していること。
②２年間で２４０時間以上の対面授業を受講かつ登校６０時間以上であること。
③成績評価がすべてＣ以上であること。
④学費・教育活動費がすべて納入されていること。
※進級は１年間の在籍をもって認定される。
※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業・進級できない場合がある。

上記の条件を全て充たした者について、毎年２月に開催される卒業・進級認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業・進級を認定する。

学修支援等

（概要）
・クラス担任制の導入　・学習支援システム（アプリ）の導入
・成績不振者への補講　・成績優秀者等の奨励（奨励賞、努力賞）
・定期的な 1on1 ミーティングの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
人（100%）	人（%）	人（%）	人（%）

（主な就職、業界等）

（就職指導内容）

（主な学修成果（資格・検定等））

医療事務管理士技能認定試験（医科）、調剤事務管理士技能認定試験、
登録販売者、介護福祉士実務者研修、手話検定　等

（備考）（任意記載事項）

2024 年度より分野・課程変更（旧分野・課程：教育・社会福祉分野、教育・社会福祉専門課程）のため卒業生なし

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
８人	１人	１２．５％

（中途退学の主な理由）

体調不良のため

（中退防止・中退者支援のための取組）

担任との定期的な 1on1 ミーティングの実施、保護者との連携、上級生とのネットワーク構築支援、学習支援アプリの導入、学業不振者への補講

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">教育・
社会福祉分野</td><td>教育・社会福祉専門課程</td><td colspan="2">介護福祉科</td><td>○</td><td>―</td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼間</td><td rowspan="2">１，９２２単位時間</td><td>938
単位時間</td><td>520
単位時間</td><td>464
単位時間</td><td>0
単位時間</td><td>0
単位時間</td></tr>
<tr><td colspan="5">１，９２２単位時間／単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
１２０人	７４人	１７人	３人	１２人	１５人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

（１）授業計画（シラバス）の作成過程
- その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う
- １月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する
- 担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う
- ３月上旬に使用テキストを決定する
- 学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する

（２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期
- 作成時期：2 月から 3 月
- 公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する

成績評価の基準・方法

（概要）

・修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
    - 期末考査（定期試験）
      - ペーパー試験
      - 実技（技能）試験
      - レポート試験
    - 累積考査
      - 模擬試験
      - 課題

・学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）となる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点

Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級条件
①１年間の出席率が９０％以上であること。
②成績評価がすべてＣ以上であること。
③学費・教育活動費がすべて納入されていること。
※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業・進級できない場合がある。
※介護福祉士国家試験は本校を卒業見込みであることが受験資格となっている。
（社会福祉振興試験センター　介護福祉士国家試験　試験概要に記載）

上記の条件を全て充たした者について、毎年２月に開催される卒業・進級認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業・進級を認定する。

学修支援等

（概要）
・クラス担任制の導入　　・学習支援システム（アプリ）の導入
・成績不振者への補講　　・成績優秀者等の奨励（奨励賞、努力賞）
・定期的な 1on1 ミーティングの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
４０人（100%）	４人（10.0%）	３６人（90.0%）	０人（0.0%）

（主な就職、業界等）

特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、認知症高齢者グループホーム、障がい者支援施設、介護老人保健施設　ほか

（就職指導内容）

自己理解、職業理解、マナー指導、身だしなみ指導、面接指導、履歴書作成指導、キャリア教育（コミュニケーション・職業観の育成・価値観の形成）等

（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士（受験資格）、レクリエーション・インストラクター、 日本語ワープロ検定、福祉住環境コーディネーター検定、手話技能検定　等
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
７４人	２人	２．７％
（中途退学の主な理由） 就職希望、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任との定期的な 1on1 ミーティングの実施、保護者との連携、上級生とのネットワーク構築支援、学習支援アプリの導入、学業不振者への補講		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">教育・
社会福祉分野</td><td>教育・社会福
祉専門課程</td><td colspan="2">国際介護科</td><td>○</td><td>―</td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総
授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼間</td><td rowspan="2">１，８７４単位時間</td><td>1,028
単位時間</td><td>390
単位時間</td><td>456
単位時間</td><td>0
単位時間</td><td>0
単位時間</td></tr>
<tr><td colspan="5">１，８７４単位時間／単位</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td>１２０人</td><td>１１３人</td><td>１１３人</td><td>３人</td><td>１０人</td><td>１３人</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

（１）授業計画（シラバス）の作成過程
- その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う
- １月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する
- 担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う
- ３月上旬に使用テキストを決定する
- 学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する

（２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期
- 作成時期：2 月から 3 月
- 公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する

成績評価の基準・方法

（概要）

・修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
    - 期末考査（定期試験）
      - ペーパー試験
      - 実技（技能）試験
      - レポート試験
    - 累積考査
      - 模擬試験
      - 課題

・学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）となる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点

Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級条件
①１年間の出席率が９０％以上であること。
②成績評価がすべてＣ以上であること。
③学費・教育活動費がすべて納入されていること。
※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業・進級できない場合がある。
※介護福祉士国家試験は本校を卒業見込みであることが受験資格となっている。
（社会福祉振興試験センター　介護福祉士国家試験　試験概要に記載）

上記の条件を全て充たした者について、毎年２月に開催される卒業・進級認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業・進級を認定する。

学修支援等

（概要）
・クラス担任制の導入　　・学習支援システム（アプリ）の導入
・成績不振者への補講　　・成績優秀者等の奨励（奨励賞、努力賞）
・定期的な 1on1 ミーティングの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
５３人（100%）	０人（0.0%）	５３人（100.0%）	０人（0.0%）

（主な就職、業界等）

特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、認知症高齢者グループホーム、介護老人保健施設　ほか

（就職指導内容）

自己理解、職業理解、マナー指導、身だしなみ指導、面接指導、履歴書作成指導、キャリア教育（コミュニケーション・職業観の育成・価値観の形成）等

（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士（受験資格）
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
１１９人	１１人	９．２％
（中途退学の主な理由） 経済的理由、体調不良、行方不明		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任との定期的な 1on1 ミーティングの実施、学習支援アプリの導入、学業不振者への補講		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">教育・
社会福祉分野</td><td>教育・社会福
祉専門課程</td><td colspan="2">社会福祉科</td><td>○</td><td>―</td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業
年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総
授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼間</td><td rowspan="2">１，８５８単位時間</td><td>816
単位時間</td><td>544
単位時間</td><td>498
単位時間</td><td>0
単位時間</td><td>0
単位時間</td></tr>
<tr><td colspan="5">１，８５８単位時間／単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
４０人	１９人	０人	３人	５人	８人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

（１）授業計画（シラバス）の作成過程
- その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う
- １月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する
- 担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う
- ３月上旬に使用テキストを決定する
- 学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する

（２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期
- 作成時期：2 月から 3 月
- 公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する

成績評価の基準・方法

（概要）

・修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
    - 期末考査（定期試験）
      - ペーパー試験
      - 実技（技能）試験
      - レポート試験
    - 累積考査
      - 模擬試験
      - 課題

・学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）となる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点

Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級条件
①卒業・進級条件検定を取得している、又は卒業・進級条件に値する検定ポイントを取得していること。
②１年間の出席率が９０％以上であること。
③成績評価がすべてＣ以上であること。
④学費・教育活動費がすべて納入されていること。
※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業・進級できない場合がある。

上記の条件を全て充たした者について、毎年２月に開催される卒業・進級認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業・進級を認定する。

学修支援等

（概要）
・クラス担任制の導入　・学習支援システム（アプリ）の導入
・成績不振者への補講　・成績優秀者等の奨励（奨励賞、努力賞）
・定期的な 1on1 ミーティングの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
１２人（100%）	１１人（91.7%）	１人（8.3%）	０人（0.0%）

（主な就職、業界等）

接客業

（就職指導内容）

自己理解、職業理解、マナー指導、身だしなみ指導、面接指導、履歴書作成指導、キャリア教育（コミュニケーション・職業観の育成・価値観の形成）等

（主な学修成果（資格・検定等））

福祉住環境コーディネーター検定、手話技能検定、介護職員実務者研修、 ペアヘルパー認定資格、日本語ワープロ検定（Word）、情報処理技能検定（Excel）、 秘書技能検定　等
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
２７人	３人	１１．１％
（中途退学の主な理由） 体調不良、経済的理由、意欲低下		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任との定期的な 1on1 ミーティングの実施、保護者との連携、上級生とのネットワーク構築支援、学習支援アプリの導入、学業不振者への補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
教育・ 社会福祉分野	教育・社会福祉専門課程	社会福祉専攻科	―	―

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
			1,090 単位時間	738 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
２年	昼間	１，８２８単位時間	１，８２８単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
４０人	３０人	０人	３人	５人	８人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

（１）授業計画（シラバス）の作成過程
- その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う
- １月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する
- 担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う
- ３月上旬に使用テキストを決定する
- 学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する

（２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期
- 作成時期：2 月から 3 月
- 公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する

成績評価の基準・方法

（概要）

・修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
    - 期末考査（定期試験）
      - ペーパー試験
      - 実技（技能）試験
      - レポート試験
    - 累積考査
      - 模擬試験
      - 課題

・学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）となる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点

Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級条件
①１年間の出席率が９０％以上であること。
②成績評価がすべてＣ以上であること。
③学費・教育活動費がすべて納入されていること。
※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業・進級できない場合がある。

上記の条件を全て充たした者について、毎年２月に開催される卒業・進級認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業・進級を認定する。

学修支援等

（概要）
・クラス担任制の導入　・学習支援システム（アプリ）の導入
・成績不振者への補講　・成績優秀者等の奨励（奨励賞、努力賞）
・定期的な 1on1 ミーティングの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
１１人（100%）	０人（0.0%）	１１人（100.0%）	０人（0.0%）

（主な就職、業界等）

障がい者支援施設、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、
放課後等デイサービスセンター、病院　ほか

（就職指導内容）

自己理解、職業理解、マナー指導、身だしなみ指導、面接指導、履歴書作成指導、
キャリア教育（コミュニケーション・職業観の育成・価値観の形成）等

（主な学修成果（資格・検定等））

特になし

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
３０人	１人	３．３％
（中途退学の主な理由） 体調不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任との定期的な 1on1 ミーティングの実施、保護者との連携、上級生とのネットワーク構築支援、学習支援アプリの導入、学業不振者への補講		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td colspan="2">高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">教育・
社会福祉分野</td><td>教育・社会福祉専門課程</td><td colspan="2">オンライン通信科</td><td>○</td><td colspan="2">―</td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">通信</td><td rowspan="2">６２単位</td><td>298
単位</td><td>0
単位</td><td>0
単位</td><td>0
単位</td><td>0
単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">２９８単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
１０人	５人	０人	３人	７人	１０人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

（１）授業計画（シラバス）の作成過程
- その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う
- １月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する
- 担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う
- ３月上旬に使用テキストを決定する
- 学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する

（２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期
- 作成時期：2 月から 3 月
- 公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する

成績評価の基準・方法

（概要）

・修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
    - 期末考査（定期試験）
      - ペーパー試験
      - 実技（技能）試験
      - レポート試験
    - 累積考査
      - 模擬試験
      - 課題

・学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）となる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点

Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級条件
①２年間で６２単位以上を取得していること。
②２年間で２４０時間以上の対面授業を受講かつ登校６０時間以上であること。
③成績評価がすべてＣ以上であること。
④学費・教育活動費がすべて納入されていること。
※進級は１年間の在籍をもって認定される。
※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業・進級できない場合がある。

上記の条件を全て充たした者について、毎年２月に開催される卒業・進級認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業・進級を認定する。

学修支援等

（概要）
・クラス担任制の導入　　・学習支援システム（アプリ）の導入
・成績不振者への補講　　・成績優秀者等の奨励（奨励賞、努力賞）
・定期的な 1on1 ミーティングの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
７人（100%）	人（%）	３人（42.9%）	４人（57.1%）

（主な就職、業界等）

特別養護老人ホーム、医療機関　等

（就職指導内容）

自己理解、職業理解、マナー指導、身だしなみ指導、面接指導、履歴書作成指導、キャリア教育（コミュニケーション・職業観の育成・価値観の形成）等

（主な学修成果（資格・検定等））

介護福祉士実務者研修、手話検定、ピアヘルパー認定試験、秘書技能検定、

福祉住環境コーディネーター　等
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
４人	０人	０．０％
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任との定期的な 1on1 ミーティングの実施、保護者との連携、上級生とのネットワーク構築支援、学習支援アプリの導入、学業不振者への補講		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
教育・ 社会福祉分野	教育・社会福 祉専門課程	オンライン通信専攻科	―	―

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	通信	６２単位	169 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
			１６９単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
２０人	５人	０人	３人	７人	１０人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

（１）授業計画（シラバス）の作成過程
- その年の教育課程を振り返り、年末までに翌年度の教育課程の再編成を行う
- １月下旬～２月上旬に科目担当者を決定する
- 担当教員を中心に授業計画（シラバス）の見直し、修正を行う
- ３月上旬に使用テキストを決定する
- 学科教員でシラバスの内容、修正状況等を確認し、３月中旬に完成する

（２）授業計画（シラバス）の作成・公表時期
- 作成時期：2 月から 3 月
- 公表時期：新年度のオリエンテーション時に公表する

成績評価の基準・方法

（概要）

・修得状況を計るために行われる期末考査に重点を置き、各科目のシラバス（授業計画）に記載されている「単位認定の方法及び基準」に基づき、日常の学習態度（事前課題、授業内課題、授業への積極参加、周囲との協調、出席状況等）や単元テスト、検定取得状況等を加味した総合点により評価を行う。
期末考査の方法については、科目の性質により、以下の種類がある。

［考査の方法］

- 考査
  - 期末考査（終末）
    - 期末考査（定期試験）
      - ペーパー試験
      - 実技（技能）試験
      - レポート試験
    - 累積考査
      - 模擬試験
      - 課題

・学修の評価は、考査点１５０点（75%）、その他を５０点（25%）とする総合点２００点満点での絶対評価を行う。その基準は以下の通りとし、C以上が合格（履修認定）となる。

Ｓ：１８０～２００点
Ａ：１６０～１７９点

Ｂ：１４０～１５９点
Ｃ：１２０～１３９点
Ｅ：１２０点未満

※教科出席率が８０％以上の者に対して、上記の基準に基づき評価を行う（教科出席率が８０％に満たない者は、原則として、期末考査を受けることができない）。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級条件
①２年間で６２単位以上を取得していること。
②２年間で２４０時間以上の対面授業を受講かつ登校６０時間以上であること。
③成績評価がすべてＣ以上であること。
④学費・教育活動費がすべて納入されていること。
※進級は１年間の在籍をもって認定される。
※上記の条件を満たしていても、生活態度や授業態度が悪く、改善されない者は、卒業・進級できない場合がある。

上記の条件を全て充たした者について、毎年２月に開催される卒業・進級認定会議（学校長、副校長、各学科長、以下常勤の教員が出席）の議を経て、学校長が卒業・進級を認定する。

学修支援等

（概要）
・クラス担任制の導入　　・学習支援システム（アプリ）の導入
・成績不振者への補講　　・成績優秀者等の奨励（奨励賞、努力賞）
・定期的な 1on1 ミーティングの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
６人（100%）	０人（%）	６人（100.0%）	０人（100.0%）

（主な就職、業界等）

特別養護老人ホーム、医療機関　等

（就職指導内容）

自己理解、職業理解、マナー指導、身だしなみ指導、面接指導、履歴書作成指導、キャリア教育（コミュニケーション・職業観の育成・価値観の形成）等

（主な学修成果（資格・検定等））

特になし
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
１１人	１人	９．１％
（中途退学の主な理由） 行方不明		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任との定期的な 1on1 ミーティングの実施、保護者との連携、上級生とのネットワーク構築支援、学習支援アプリの導入、学業不振者への補講		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
医療総合科	60,000 円	680,000 円	395,200 円	その他納付金は施設設備費・維持費・実習費・健康管理費など
オンライン通信科	0 円	250,000 円	103,200 円	その他納付金は施設設備費・維持費・損害保険料など
介護福祉科	60,000 円	680,000 円	495,200 円	その他納付金は施設設備費・維持費・実習費・健康管理費など
国際介護科	190,000 円	440,000 円	518,300 円	その他納付金は施設設備費・維持費・実習費・健康管理費など
社会福祉科	60,000 円	680,000 円	393,200 円	その他納付金は施設設備費・維持費・実習費・健康管理費など
社会福祉専攻科	60,000 円	460,000 円	293,000 円	その他納付金は施設設備費・維持費・実習費・健康管理費など
オンライン通信専攻科	0 円	250,000 円	103,200 円	その他納付金は施設設備費・維持費・損害保険料など
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） http://if-college.com － 情報公開 － 学校評価 － 自己評価
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
＜基本方針＞ 学校関係者評価は自己評価の結果を本学の関係者により組織した学校関係者評価委員会に報告し意見を聞き、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。 また、学科長と学科教員はカリキュラムの原案を作成するにあたり、本委員会での意見を基に専門的かつ実践的な教育課程編成を決定していくものとする。 ＜主な評価項目＞ ①教育理念・目標　②学校運営　③教育活動　④学修成果　⑤学生支援 ⑥教育環境　⑦学生の受入れ募集　⑧財務　⑨法令遵守　⑩社会貢献・地域貢献 ＜委員会の構成＞ 次に掲げる区分のいずれかから学校長が委嘱する委員２名以上により構成する。 （１）　関連業界等関係者 （２）　卒業生 （３）　教育に関し知見を有する者 （４）　その他学校長が必要と認める者 なお、委員の任期は１年とし、再任を妨げないものとする。

＜実施方法＞
年１回(春)

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
社会福祉法人 新潟南福祉会	令和７年４月１日～ 令和８年３月 31 日	関連業界等関係者
一般社団法人　新潟県労働衛生医学協会	令和７年４月１日～ 令和８年３月 31 日	関連業界等関係者

学校関係者評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

http://if-college.com － 情報公開 － 学校評価 － 学校関係者評価

第三者による学校評価（任意記載事項）

c）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

http://if-college.com/